

Welfare

[ウェルフェア]

2020

67

「2021年度社会福祉助成事業 実施要綱」決定

CONTENTS

P2 2020年度社会福祉助成事業助成先一覧

P4 2021年度社会福祉助成事業実施要綱

P6 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

ボランティア電話相談員の養成、スキルアップのための合宿研修
社会福祉法人 いのちの電話

広報啓発事業(意志決定支援研修)

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会

就労支援サービスの支援力向上のための研修

一般社団法人 サステイナブル・サポート

「ふたご手帖」を用いた専門職向け多胎家庭支援研修

双子・三つ子サークル グリーンピース

P14 書き損じはがき収集ご協力をお願い

P15 福祉の共済コーナー

2020年度 助成金交付団体決定

2020年度の助成金交付先は、研修事業と研究事業を対象として、52団体に1720万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から沖縄まで28都道府県の社会福祉法人やNPO、その他任意団体等から合計78件の応募がありました。また、アジア福祉助成については、5団体に約146万円の助成を決定しました。

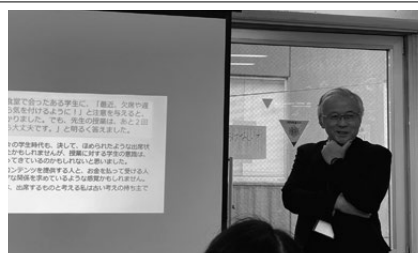
2020年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 44団体 助成額: 1,363万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず	第7回ソーシャルファームジャパンサミット in 東京
青森県	CFS (慢性疲労症候群) 支援ネットワーク	医療・福祉関係者等を対象としたME/CFS専門医と障害年金専門社労士によるセミナー
宮城県	社会福祉法人 東北福祉会	認知症ケアセミナー ～認知症の種類と、その特徴を理解し実践しよう～
宮城県	特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘	子どもと関わる大人の現場ですぐ役立つ研修会
茨城県	特定非営利活動法人 ウィメンズネット「らいず」	[DVと虐待が及ぼす影響を理解する ～女性・子どもの命と尊厳を守り、つなぐ支援] 研修事業
埼玉県	高次脳機能障害者を支える会こもれび	講演会「高次脳機能障害者が地域で暮らす。自立の為に必要な地域支援とは」
千葉県	一般社団法人 A-TRUCK 北国分駅前しゃりっこ保育園	発達障害児の子育てと保育について考えるための講演会 十巡回相談
東京都	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア電話相談員の養成、スキルアップのための合宿研修
東京都	社会福祉法人 桜雲会	[命]を護るためには? =視覚障害者のための体験型防災セミナー
東京都	社会福祉法人 東京コロナー 東京都葛飾福祉工場	[在宅就労セミナー2020]開催～在宅就業支援制度の課題・活用～
東京都	一般社団法人 CIS	space Kid's Carnival
東京都	一般社団法人 オリバラKAIGO Next Action	[ゆめ旅KAIGO! 2020で広げよう! ～誰でも自由にどこへでも～]
新潟県	社会福祉法人 十日町市社会福祉協議会	地域支え合いセミナー ～地域共生社会を目指して～
新潟県	新潟医療福祉大学 (FWS)	車椅子の修理とシーティング技術講習会の実施
福井県	社会福祉法人 足羽福祉会	足羽福祉会サービス実践報告会
山梨県	社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会	広報啓発事業
岐阜県	社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会	地域とつなぐ ～子ども・若者の自立のために～
岐阜県	一般社団法人 サスティナブル・サポート	就労支援サービスの支援力向上のための研修
静岡県	社会福祉法人 天竜厚生会	社会福祉法人学校法人天竜厚生会実践発表会
静岡県	社会福祉法人 明光会	障害者就業支援シンポジウム複数採用への取り組み ～「チーム化」と「多様化」の工夫
愛知県	社会福祉法人 豊明市社会福祉協議会	豊明市ひきこもり対策推進事業
愛知県	社会福祉法人 名古屋身体障害者福祉連合会	音声認識サポーター啓発・養成講座
愛知県	特定非営利活動法人 ドリーム	脳卒中障害者家族のコミュニティをつくるための家族教室開催
愛知県	特定非営利活動法人 子ども&まちネット	[変わっていく思春期の「からだ」と「こころ」を大好きになる] ～障がいのある子ども若者の性と生の理解と支援～
愛知県	東海特別支援教育カンファレンス実行委員会	東海特別支援教育カンファレンス
三重県	特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿	地域見守り福祉社会を目指した「災害時要支援者支援を考える防災ワークショップ」の展開
大阪府	一般社団法人 こもれび	子ども「見える化」プロジェクト ～子どもたちの現状と大人にできること～

助成先の研修会・講習会の様子



(社会福祉助成・アジア福祉助成)

都道府県	団体名	事業名
大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	外国人介護スタッフとともに働く職場環境づくり
大阪府	特定非営利活動法人 南大阪サポートネット	ひきこもり当事者と支援者のための対人関係スキル向上講座
大阪府	特定非営利活動法人 いちばん星	障がい児者の親なき後～きょうだい支援の視点から
大阪府	特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝	多様な働き方を考えるネットワーク構築事業
兵庫県	社会福祉法人 ヨハネ会 いたやど障害者地域生活支援センター	神戸市地域支援機能強化事業
兵庫県	一般社団法人 高次脳機能障害者サポートネット	高次脳機能障害啓発講演会
兵庫県	神戸市立科学技術高校「空飛ぶ車いす研究会」	海外での車いす修理活動及び家庭訪問
奈良県	なんとカンファレンス実行委員会	『なんとカンファレンス2020夏』
和歌山県	社会福祉法人 ふたば福祉会	どんまいクラブ10周年記念事業 ～この地域で発達障害のある方を支える～
島根県	社会福祉法人 ふらっと	みんなの未来の地域生活をみんなで考えるワークショップ研修事業
島根県	えくぼ	えくぼ大阪・出雲交流爆笑人形劇
山口県	社会福祉法人 はるか	親子の絆を深めるコミュニケーション セミナー
香川県	西讃ろうあ協会	手話レベルアップ講座
高知県	特定非営利活動法人 あさひ会	きょうざれん四国ブロック学習交流集会 in こうち
宮崎県	特定非営利活動法人 こじいの森・こどもの時間	こじいの森 子育て支援者のための手仕事研修会
鹿児島県	特定非営利活動法人 オレンジハート	オレンジハートプロジェクト 七福神キッズ～福祉のお仕事体験～
沖縄県	自立生活センター南十字星	南十字星の自立生活塾

B. 研究事業 8団体 助成額:357万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	地域共生型ひきこもり包括支援プラットフォーム構築事業
東京都	公益財団法人 日本チャリティ協会	パラアート(障害者アート) 国際交流活動事業
東京都	一般社団法人 日本車椅子シーティング協会	「国際協力のための姿勢保持」研修パッケージの開発および実証試験
東京都	特定非営利活動法人 バディチーム	民間団体における養育支援訪問事業の実態と実践モデルづくりに関する調査研究事業
神奈川県	社会福祉法人 かの木会 くず葉学園	知的障害のある高齢者の未病改善に向けての運動プログラムの開発
山梨県	社会福祉法人 葛葉学園	児童相談所及び児童養護施設の一時的保護機能を担う専門職員の研修体系モデルの開発に関する調査研究事業
広島県	特定非営利活動法人 咲良の会	「介護ワーカーの心の尊厳を認知症高齢者の暴力から守るプロジェクト」調査とシンポジウム
福岡県	一般社団法人 久留米健康くらぶ	認知症カフェでの居宅訪問活動(認とも)

2. アジア福祉助成事業

国	所属	事業名
タイ	開発促進ボランティア協会 Volunteers for Development Association (VDA)	社会福祉や社会開発分野の組織で働くスタッフの能力開発
タイ	アンチ・トラフィック連盟(人身売買等防止連盟) Alliance Anti Trafic (AAT)	タイの子どもたちとその家族を対象とした危険な移住と人身売買被害防止のための教育支援
マレーシア	モンフォート青年研修センター Monfort Youth Training Centre	楽しい学びづくり
スリランカ	サハナサラナ社会福祉財団 Sahana Sarana Social Welfare Foundation	社会的弱者のエンパワメント
インドネシア	サウダラ・セジワ財団 SAUDARA SEJIWA FOUNDATION	障害者のための防災・減災プログラム

助成先の研修会・講習会の様子



社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間:2020年11月1日~2020年12月15日(消印有効)

2021年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した“研修事業”や“研究事業”に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2021年度も下記の通り、社会福祉関係者(社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等)に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

1 助成対象事業と助成対象経費

【研修事業】

①対象事業

- 福祉施設職員の方などを対象としたケース

福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研修事業

- 地域住民の方などを対象としたケース

福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)

②対象経費

- 講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費

【研究事業】

①対象事業

- 福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業

- 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業

②対象経費

- 研究事業費・調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費

2 事業実施期間と助成金額

①事業実施期間

2021年度(2021年4月から翌年3月末)中に実施される事業

②助成金額

1件(1団体)あたりの上限額50万円(総額2,000万円以内)

※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとなります。(申請は1団体、1事業とします。)
- ②法人格のない任意団体、グループは申請書下段に市区町村社会福祉協議会の推薦を得て、申請書をご提出ください。
- ③反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受けられません。
- ④助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表させていただきます。また、実施事業に参加もしくは事後に訪問させていただくことがありますので、ご了承の上お申し込みください。

4 申請方法

- ①申請書 2020年9月以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(<https://www.nisshasai.jp/>)をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
 - ②申請期間 2020年11月1日～2020年12月15日(消印有効)
 - ③提出先 〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8
公益財団法人日本社会福祉弘済会 助成事業係 ☎ 03-5858-8125
- ※申請書に記載されている個人情報は本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。

5 添付資料

申請時に下記資料を添付の上、申請書と共にご提出ください。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査と結果通知

- ①申請案件は予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催)で決定します。
- ②選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体に書面にて通知いたします(2021年3月下旬予定)。
- ③申込み書類は返却いたしません。

7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。
※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

●助成事業成果報告

ボランティア電話相談員の養成、 スキルアップのための合宿研修

社会福祉法人 いのちの電話
理事長 末松 渉

1. 団体の紹介

いのちの電話は1953年ロンドンで開始された自殺予防のためのサマリタンズ運動に端を発しています。苦悩の多い時代に生きるものが互いによき隣人になって、一人ひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。現在東京では約250名のボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に、よき隣人として開かれた心を持ち、自殺などの様々な精神的危機にある方に親身になって対応しています。

2. 助成事業概要

ボランティア相談員になるための養成研修、ボランティア相談員のリーダーになるための特別研修、ボランティアリーダーの継続研修として、合宿研修が行われます。相談員の資質の向上や支えあいのための研修活動として、合宿研修は欠かせないものです。

1. 養成研修

1年半の研修の第2課程修了時に行います。2020年中の相談員認定を目標とします。基本的なコミュニケーションについて考察する場、自分自身を振り返る時間とします。



2. 特別研修

1年半の研修の2年次に行います。人間関係理解のための研修です。専門の講師によるグループセッションが行われ、グループを担う人材育成を目標とします。

3. リーダー会合宿

ボランティアリーダーのための情報交換、支えあい、研修を行います。各人が担っているグループでの体験や問題について、お互いに話し合い研修を行います。小グループに分かれてのグループスーパービジョンも行い重要な研鑽の場となっています。

3. 事業の成果

1. 養成研修

電話相談員についてのぼんやりとしたイメージから、自分の理想とする相談員の姿を思い描くことができた。自身について改めてふりかえる時間を持てたことで、自身の傾向に気付き、課題に向けて具体的な取り組みができるようになった。

2. 特別研修

リーダーとして、グループの運営に携わる上での具体的なイメージがわかってきたようだ。また、時間をかけて自分自身の人との関わり方についてふりかえることができ、今後のモチベーションにつなげることができた。

3. リーダー会合宿

普段、顔を合わせる機会がないため、日ごろの活動をふりかえり、親ぼくの機会を持てた。さらに来年度に向けての新たな課題や新しい研修について意欲的に取り組める機会となった。

4. 成果の広報・公表

当社会福祉法人いのちの電話では、全員がボランティアの相談員です。ボランティアというと、できる時にできるだけことを行えばよい、というように都合よく解釈される場合があります。しかし、法人には電話相談のしくみ、枠組みがあります。当然、相談員一人一人は組織の決まりを守り、よりよい相談活動をするための継続的な研修の場が必要となります。そのためには仲間同士の支え合いがボランティアとして活動を継続していくための重要なファクターとなります。そのために、忙しい時間をやりくりして臨む合宿は、普段一人で抱えていた疑問点や対応の仕方を確認する機会となり、孤立しがちな相談員の仲間意識を高める良い機会となっております。



支えていく上での覚悟や仲間同士の支え合いを確認することは、途中で離脱することがないように、孤立を避けるための仲間意識を高めるために必要な時間と認識しており、リーダー養成時には必要な研修であると考えている。

リーダー会研修は、1年に一度の合宿を通じてリーダーとしての自分を再確認する意味と、仲間との情報交換や仲間同士の研鑽の場として重要である。

よって、今後も引き続き合宿研修を継続する予定です。



5. 今後の展開

忙しい現代にあって時間を取ることが難しくなっているが、当組織として合宿研修は今後も欠かせない研修の一つと考えている。

養成研修については毎年ボランティア相談員を募集し、1年半の研修期間を経て、研修委員会での承認を得たうえで相談員の認定を行っているが、この研修に合宿は欠かせないものとなっている。時間を長く共有することによるメンバー同士の支えあい、絆を深めていけるという意味がある。

特別研修について、今後リーダーとしてグループを

●助成事業成果報告

広報啓発事業（意志決定支援研修）

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会
会長 山田 文夫

1. 団体の紹介

甲府市における、地域福祉を推進する中核的な団体として、地域の各種団体や行政などと幅広く連携・協働する中で、高い公益性と社会福祉協議会としての自主性・創造性を発揮して、「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」実現のため、活動している。例えば、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいる。

2. 助成事業概要

成年後見制度を支える理念の一つである「自己決定の尊重」は、実践現場では権利擁護の根幹をなす「意思決定支援」により実現される。

しかし、実践現場においては、「自己責任」をほのめかしたうえで「自己決定」を強く求めるケースや、支援者の期待を窺わせて「自己決定」を求めるケース、また、本人が信頼している支援者等に決定を委ねることも「自己決定」の一形態である認識の不十分さなど、理解の不足が窺われるのが現状だ。

「自己決定」を支える「意思決定支援」とは、個別性があり、様々な要素を含み、さらに、寄り添ったり俯瞰したりと視点や立ち位置を変えながら継続した援助

の中で実現されていくものであるといえる。

このことから、3年間「真の意思決定支援とは」をテーマに視点を変えながら考え続けることで、適切な権利擁護実践が根付き、自分の意思を現すことが難しい人の権利が護られる地域社会を築くことを目的に研修会を開催している。初開催となる今年度は、上半期（9月）に講演会、下半期（2月）にシンポジウムを開催した。

3. 事業の成果

2019年度テーマ「意思決定支援～いま、現場で起きていること～」

3年間継続研修の第1回目となる上半期は、障がい分野でも活躍されている野澤和弘さんを講師に招いて講演会を開催した。福祉従事者、医療従事者、学校関係者、行政職員などの支援者や障がいをお持ちの方やそのご家族等76名が参加され、他国における状況とともに日本における現状のほか、講師自身の身近な話題も交えた講演であり、アンケートでは回答者の約88%から「分かりやすかった」との回答があった。また、「基本的なことではあるが、どれだけ現場できちんと向き合う時間を取って、相手の意思を知る努力ができていただろうか。もっと丁寧に知ることをしなくてはならないと思った。」「大変考え深く、重く言葉が響く内容だった。わかっているも目を背けてきたことが多く、しっかり向き合いたいと思う。」などの感想をいただいた。

第2回目となる下半期は、シンポジウム形式で開催し、42名のご参加をいただいた。障がい分野、高齢分野、児童分野からシンポジストを招き、それぞれの現場における意思決定支援の現状を報告していただいた。アンケートでは、回答者の約82%から「分かりやすかった」との回答があった。また、「児童・障がい（医療福祉）、高齢の3分野それぞれから意思決定支援についてお話があり、共通している部分、異なる部分があり、視野が広がりました。支援者の多くが悩み、試行錯誤し続ける意思決定支援について、立ち止まって考える機会と



なりました。前回もですが、教育関係（障害児教育など）の方にも参加してほしい研修会でした。」「日頃、当たり前のように行っている意思決定支援ですが、あらためて当たり前前に支援できていなかったと感じました。当事者の望んでいることを知り、丁寧にアセスメントしていきたいと思います。」などの感想をいただいた。

さらに、アンケートから講演会では95%、シンポジウムでは77%の方が次年度も参加したいという継続の意思があることが分かった。（1回目と2回目で参加継続しているのは16名。）

福祉従事者の参加が多くみられる一方、障がい当事者の参加は少なく、また、参加者からは教育関係の支援者にもっと参加してほしいとの意見があった。広報の方法を見直し、幅広く広報を行う必要性を認識した。



4. 成果の広報・公表

「意思決定支援研修会」は、視点を変えながら3年間継続して考え続ける機会を提供することで適切な権利擁護実践が根付くことが目的の一つであるため、年度ごとに報告書を作成し、研修参加者に配布していくことを予定している。

また、報告書については、今後、さまざまな研修会等における配布を通じて、広く市民への啓発に役立てていく予定である。

さらに、当協議会のホームページに研修内容等（写真を含む）を掲載し、広報を行っていく。

5. 今後の展開

「意思決定支援研修会」は3年継続研修であり、基本テーマのほか年度テーマを設定している。

2019年度に年度テーマ「意思決定支援～いま、現場で起こっていること～」の研修内容を踏まえ、継続研修2年目にあたる2020年度は、「意思決定支援～あるべき姿～」を年度テーマとして上半期に講演会形式、下半期にワークショップ形式での開催を予定している。このため、2019年度の研修に参加されなかった方にも継続研修の意義が共有されるよう、2020年度の参加者には2019年度研修の資料を配布する。

3年継続研修は初めての試みであるが、1年度ごとに参加者一人一人に新たな気付きやこれまでの取組等についての振り返りとともに、今後の取り組み等についての方向性を見出せるよう、また、3年間終了後には、3年間を通して一つの答えが出せるよう研修を進めていく。

2年度目はワークショップ形式を取り入れる予定であるため、障がいを持った方の参加や地域住民の参加について、積極的に働きかけていく。



●助成事業成果報告

就労支援サービスの 支援力向上のための研修

一般社団法人 サステイナブル・サポート
代表理事 後藤 千絵

1. 団体の紹介

(一社)サステイナブル・サポートでは、発達障害者・精神障害者を対象に就労支援を行っています。岐阜市指定福祉サービスの就労移行支援事業所ノックス岐阜の運営、就労継続支援B型事業所アリーの運営、独自事業である発達障害グレーゾーン学生/若者の就労支援事業の運営、障害者の家族のための勉強会/茶話会の運営、ソーシャルフットサル活動、ダイバーシティ啓発イベント「まぜこぜフェス」の開催等を行っています。一人ひとりの障害や特性に寄り添ったサポートを心がけております。

2. 助成事業概要

精神障害者・発達障害者の就労支援に従事する事業所の職員が、支援技術向上、業務関連知識向上、周辺領域知識向上を目標、支援に活かすことを目的として、月1回(年12回)開催した。

2019年

- 4月：傾聴トレーニング(シニアキャリアカウンセラー 中川久枝氏)
- 5月：労働基準法(伏屋社会保険労務士事務所 吉井元子氏)
- 6月：DV被害者に対する相談の進め方(有)ハートプランニング中部取締役 廣瀬直美氏)
- 7月：傾聴トレーニング(シニアキャリアカウンセラー 中川久枝氏)
- 8月：障害理解・困難事例検討会(いかわクリニック 院長 井川典克氏)
- 9月：応募書類添削の基礎と応用(キャリアコンサルタント 三ツ口和美氏)
- 10月：傾聴トレーニング(シニアキャリアカウンセラー 中川久枝氏)
- 12月：発達障害学生支援(聖徳大学 安田和夫氏)

2020年

- 1月：【地域住民向け研修】精神障害者の就労支援(JSN 代表 金塚崇氏)
- 2月：傾聴トレーニング(シニアキャリアカウンセラー 中川久枝氏)
- 2月：個別支援計画・支援の基本姿勢(相談支援事業所 あめあがり代表 太田隆康氏)
- 3月：「ひきこもり問題」の射程(岐阜大学 南出吉祥氏)



3. 事業の成果

研修の目的としては、上述した通り、精神障害者・発達障害者の就労支援を行うための支援技術向上、業務関連知識向上、周辺領域知識向上とした。

当法人は設立して5年目となるが、職員は福祉分野出身と一般企業出身の二極である。「一般就労を目指す障害者」を支援するにあたり、どちらの知識・技術も必要であるが、職員の知識の偏りが課題であった。

年間を通して様々な分野の研修を行い、毎回職員全員が参加した。福祉分野出身の職員は「就労」の知識を、一般企業出身の職員は「福祉・疾病」の知識を深めることができた。また、双方が知識・技術をバランスよく得たことにより、全職員の支援スタンスが揃うようになり、利用者に対してより一体的な支援を行う大きなきっかけとなった。

また、精神障害のほとんどは後天的なものであり、その背景には様々な社会課題が存在する。一括りに「精神障害」として見るのではなく、そのバックグラウンドに関する知識（ドメスティック・バイオレンスやひきこもり等）を得ることにより、より利用者に寄り添った支援が提供できるようになったと感じている。

特に、1月に開催した「地域住民向け研修」では、他の支援機関や地域住民にも開けた研修とした。支援者に対しては、自分の所属する施設、団体の支援に捉われるのではなく、支援の幅を広げる一助となった。また、地域住民に関しては、（主に当事者の家族が参加した）福祉サービスである就労移行支援事業所でどのような支援が行われているのか、障害者の一般就労で社会にどのような良い影響があるか等を知ってもらえる機会となった。

当団体が運営している就労移行支援事業所ノックス岐阜では、2016年秋に開所以降、毎年10名を超える就職者を輩出しているが、（利用定員20名中）昨年度は例年より高い割合で就職者が出ており、2019年度中、16名の就職者が出、過去最高実績となった。もちろん、これが100%研修の成果といえるエビデンスはないが、職員に、支援に、地域に良い影響を与えていることは間違いない。

4. 成果の広報・公表

職員向け研修を行っていることや、内容、効果等を、法人代表理事のSNS（Facebook）で随時公開した。これだけでも、毎回約400人に活動を公表する機となった。また、講師の先生方もSNSに掲載いただいた機会もあった。

また、「地域住民向け研修」では、団体の会報誌（毎月発行）に案内を同封し、地域の幅広い支援機関、当事者、当事者家族等に郵送にて届けた（約250部）。また、これと併行して、当団体の公式ホームページやSNS（Facebook、Twitter）、報道各社へのプレスリリース送付などを行い、公表・告知した。

今後としては、年間の研修を通じた報告集を作成、印刷し、当団体の各事業部署に設置するとともに、地域の支援団体に配布する予定である。また、電子ファイル（PDF）化も行い、電子での配布も行える態勢と

することとする。

5. 今後の展開

当団体では、精神障害者・発達障害者を対象に就職支援を行っているが、他者からはわかりにくい障害のため、まだまだ誤解や偏見もあり、就労および定着には、周囲の理解を促進する支援者の技量が求められている。

研修を開催できたことで支援の質が向上しているが、知るべき分野はまだ多い。また、奇しくも2020年4月現在、社会情勢は大きく変化している。変化する社会に対応し、支援をアップデートしていくためには、職員研修を「継続」することが重要と感じる。

特に、当団体では、幅広いニーズに対応するため、2019年度、新たに就労継続支援B型事業所を開所した。幅広いニーズに対応するということは、幅広い知識・技術を要するということだ。

継続して職員研修を行うことで、支援技術、業務関連知識が向上することにより、より複雑な問題に対しても対応が可能となり、就職者数の増加が見込まれる。また、より多くの生きづらさを抱えた人に対し支援が可能となる。

また、支援の幅を広げるためには、相応の人員が必要だ。新規職員が入職した際のOJTにも積極的に活用していきたい。



●助成事業成果報告

「ふたご手帖」を用いた 専門職向け多胎家庭支援研修

双子・三つ子サークルグリーンピース
高木 直美

1. 団体の紹介

平成13年 佐賀市の多胎支援として「ひろば事業」が始まる。

平成16年「双子・三つ子サークルグリーンピース」発足。
佐賀市と連携して活動。現在に至る。

活動日時：第1・3火曜日 10：15～11：40

場所：佐賀市ほほえみ館

内容：おしゃべり会、おゆずり会、運動会やクリスマス会など。

※グリーンピースの多胎支援活動から、令和元年5月「さが多胎ネット」発足につながる。

2. 助成事業概要

【目的】

多胎妊娠の情報がない中、多胎家庭が妊娠早期のうち多胎ならではの情報を得ることで、妊娠、出産、育児への心構えと準備ができ、先の見えない不安が軽減される可能性は高いと思われる。

日本全国が多胎妊娠・出産に関する情報提供の格差解消を目的に、母子健康手帳の多胎家庭向き副読本として作成された「ふたご手帖」を用いた専門職向けの研修会により、多胎家庭の特性と支援について共に考え、より安心して子育てができるようになることを目的とする。

【日時】2019年6月30日(日) 14：30～16：30

【場所】佐賀市ほほえみ館(佐賀市兵庫北三丁目8番36号)

【内容】「多胎家庭支援に向けたふたご手帖プロジェクトの経緯」

講演：「多胎妊娠の特徴と家族の心情」

講演：「多胎家庭への行政保健師の役割」

多胎育児体験談：「妊娠・出産・育児のこんなことを知らなかつた!!」など



3. 事業の成果

研修会には、保健師、助産師、子育て支援センター関係者、多胎育児支援者や、ピアサポーター（多胎育児経験者のサポーター）など、54名の参加があり、熱心に講師の先生方の話に聞き入っていた。

ふたご手帖プロジェクトの講師より、妊娠期を助産師、保健指導に関して保健師、その後に多胎育児体験談を聞くことで、単胎とは大きく違う多胎育児を理解したうえで、過酷な多胎育児の現状を知ることができ、専門職としての大きな役割を認識できたと思う。アンケートからの意見より

◆多胎家庭は出産後の育児だけでなく、妊娠中から大変であること。母子ともにハイリスクで虐待リスクも高いことが分かりました。絶対に救える命だから必要な支援をしっかりと届けたい。(妊娠期)

◆病院側の人間として、無事に出産されるまで(管理入院中)精神面フォローを含め、自分なりに関わっているつもりでしたが、全く不十分であったと痛感しました。(妊娠期)

◆相談しやすいように担当保健師を明確にして、適切な時期に支援ができるよう計画を立て、妊娠期からの切れ目のない支援をしていきたいと思いました。(育児期)

- ◆ピアサポーターとして活動する先輩ママの育成が必要なが分かりました。(妊娠期・育児期)
- ◆多胎は家族のサポートだけでは精神的にも肉体的にも負担が大きい。もっと身近な支援がないか、どのような支援を望まれているかなど、困っていることの情報を取り、介入できるよう伝えていくことの必要性を感じました。(育児期)

このように、研修会実施により、単胎とは違う多胎の妊娠・出産・育児の実態を知り、支援への理解が深まり、今後もこのような多胎支援についての研修会を希望する声が多く聞かれた。参加者の多胎支援への関心の高まりを感じる研修会になった。

4. 成果の広報・公表

今回の「ふたご手帖」を用いた専門職向け多胎家庭支援研修の内容や成果をブログで掲載した。

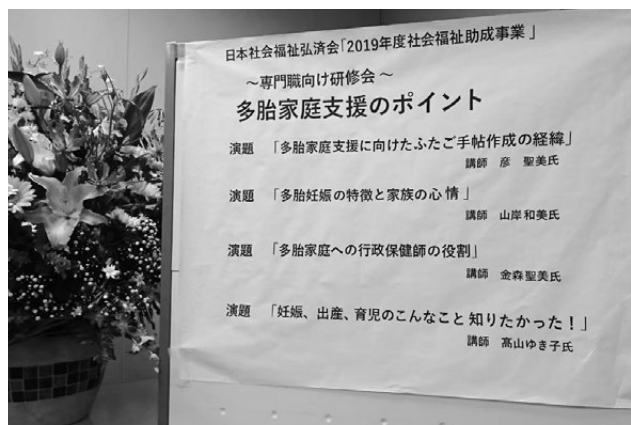
また、公益財団法人日本社会福祉弘済会「2019年度社会福祉助成事業」～専門職研修会～「多胎家庭支援のポイント」の報告書を作成し、佐賀県、各市町、名義後援をいただいた団体や参加者、ふたご手帖プロジェクトのみなさんの関係する団体などに配布した。

5. 今後の展開

佐賀県が多胎妊婦の母子健康手帳配付時にふたご手帖を配付し、専門職が妊娠早期より必要な情報提供と、多胎に関する相談・指導ができるようになるように、このような研修会をしていくことを関係管轄課に働きかけていきたい。それによって社会的サポートの地域格差がなくなることにつながると思う。

また、専門職が多胎支援について学びを深めることで、多胎家庭へのアプローチが増え、これにより多胎妊婦や多胎家庭の不安軽減が図れ、いつでも専門職に相談できるという安心感が生まれるようになることで、虐待防止効果が高まると思う。

そして、今回の研修を専門職と共に多胎育児経験者のピアサポーターが受講することで、ピアサポーターの資質の向上を図るとともに、多胎支援の場での専門職とピアサポーターの連携事業（多胎児の赤ちゃん訪問など）に発展し、「子育てしやすい佐賀県」としての基盤整備が充実することを目指して取り組んでいきたい。



いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して“パンクしないタイヤの購入費用”や“工業高校から国際空港までの車いす輸送費用”に充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、生徒会などで車いすの修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などでアジア各国を訪問する際に、搭乗機手荷物として運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(2019年1月～2019年12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

株式会社剣建築設計事務所
長崎県立長崎工業高等学校
栃木県立栃木女子高等学校
三菱総研DCS株式会社
山形市立高橋中学校
グリーンコープくらし用品サポート自由自在
兵庫県立相生産業高等学校
株式会社大星社
岸谷

岩手県社会福祉協議会
佐藤 弘
竹谷 尚人
NPO法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい せや
社会福祉法人芳香会
松岡 誠一
阿見町社会福祉協議会
ジブラルタ生命保険株式会社

お問い合わせ
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8
URL ▶ <https://www.nisshasai.jp/>
TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126

社会貢献活動への“想い”

ジブラルタ生命の親会社である米国プルデンシャル・ファイナンシャルは、本業を通じて「経済的な保障と心の平和」を社会に提供すると同時に、「社員一人ひとりが地域コミュニティに貢献することにより、会社と地域がともに成長すること」を大切にしています。

私たちジブラルタ生命は、プルデンシャル・ファイナンシャルが大切にしている“想い”と、当社の企業理念に沿った社会貢献活動に積極的に取り組んでいくことで、企業としての社会的責任を果たしていきたいと考えています。その活動の一つをご紹介します。

ボランティア・スピリット・アワード

SOCボランティア・スピリット・アワードは、ボランティアに取り組む中学生・高校生を応援するプログラムで、1995年にアメリカでスタートしました。

日本では1997年から開催され、今では世界各国で行われる国際的なプログラムとなっています。SOCでは青少年たちのボランティアへの取り組みを称え、「ありがとう」という言葉とともに感謝の気持ちを贈ります。また、参加者同士が出会い、お互いの活動を知り、交流を深めるためのさまざまなプログラムを用意しています。



SOC ボランティア・スピリット・アワードは一人の社員の思いつきから始まりました。

ある日、社員が新聞を読んでいると、まだ小さい男の子がゴミの山の中から自転車を救出した、という記事が目にとまりました。その男の子は芝刈りしてお金を稼ぎ、自転車の部品を買って、壊れて捨てられていた自転車を修繕して、貧しいスラムの子どもたちに寄付をしたのです。社員からこの話を聞いたアメリカのプルデンシャルの役員たちは、地域社会のために尽くしているアメリカ中の子どもたちを表彰しようと決めたのです。

受賞者の声

- 様々なボランティア活動を知ることができ、自分の今後に活かせるようなことを学べたと思います。
- 一人ひとりが一生懸命取り組んできたボランティア活動を知ることができ、改めて別の角度からボランティア活動を見ることで、自分の活動をより深め、広げていきたいと思いました。

◆2020年度 第24回の応募要領は、8月下旬告知を予定しております。

※新型コロナウイルス感染の影響で、確定ではありません。

SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワードの詳細は、

ホームページをご覧ください。<http://www.vspirit.jp/>

ボランティア・スピリット・アワード事務局 03-5501-5364





くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。



公益財団法人 日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8 TEL.03-5858-8125 <https://www.nisshasai.jp/>